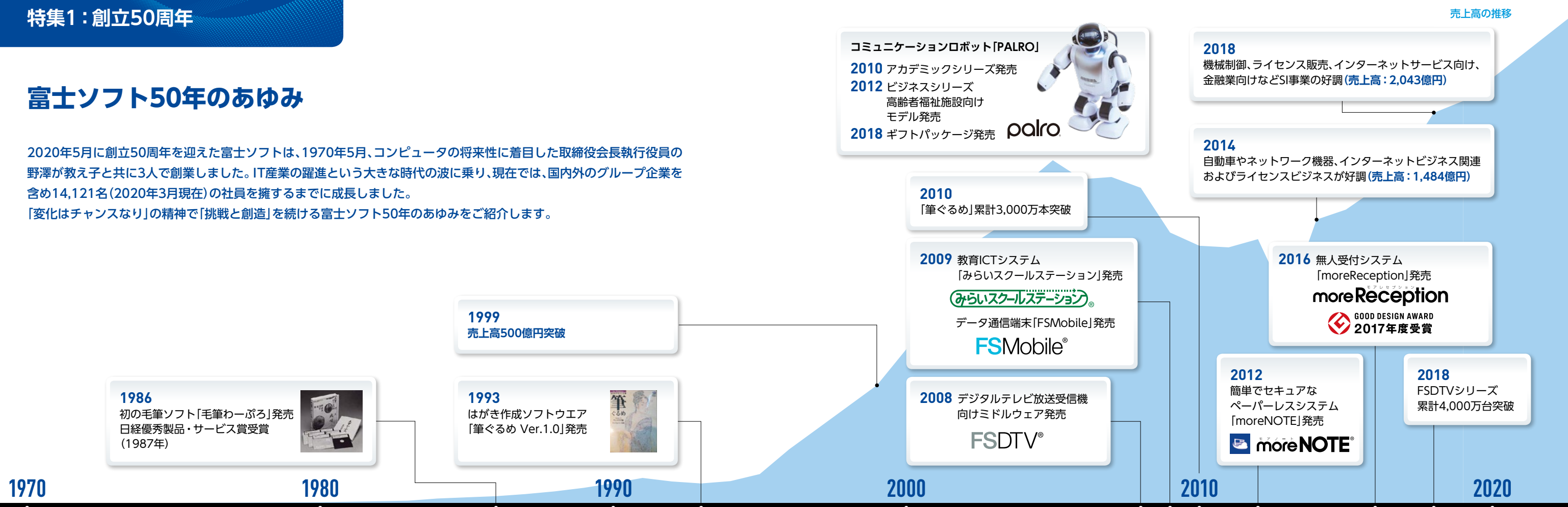


富士ソフト50年のあゆみ

2020年5月に創立50周年を迎えた富士ソフトは、1970年5月、コンピュータの将来性に着目した取締役会長執行役員の野澤が教え子と共に3人で創業しました。IT産業の躍進という大きな時代の波に乗り、現在では、国内外のグループ企業を含め14,121名(2020年3月現在)の社員を擁するまでに成長しました。
「変化はチャンスなり」の精神で「挑戦と創造」を続ける富士ソフト50年のあゆみをご紹介します。



創業期 (1970-1996)

オペレーター中心の技術者派遣からプログラマー中心に業態転換。ソフト開発の一括請負に尽力し、いち早くマイコン用ソフト開発に進出。独立系ソフトウェア企業としての地歩を確立し、店頭公開、東証二部上場を果たす。金融系業務システムに強みを持つ(株)ABCと合併。

- 1970**
- 神奈川県横浜市に(株)富士ソフトウエア研究所設立



- 1984**
- 富士ソフトウエア(株)に商号変更

- 1985**
- 神奈川県鎌倉市に本社ビル落成

- 1987**
- 日本証券業協会東京店頭市場に株式を公開

- 1990**
- 第1回全日本ロボット相撲大会開催



- 1992**
- 東京証券取引所市場第二部に株式を上場

- 1995**
- インターネットビジネス参入
 - ISO9001(品質保証の国際規格)認証取得

- 1996**
- (株)ABCと合併、富士ソフトABC(株)に商号変更

成長期 (1997-2010)

目標としてきた東証一部上場を2年前倒しで実現した後、証券会社、製造業、流通業等の業務システム開発会社を次々に傘下に収め、自社の強みを補完する技術や顧客基盤を取り込むM&A戦略を積極展開。

- 1997**
- ネオスソフト(株)子会社化

- 1998**
- 東京証券取引所市場第一部に株式指定替え
 - ネオテック(株)子会社化
 - ネオテック(株)とネオスソフト(株)が合併、サイバーコム(株)に商号変更



- 1999**
- サイバネットシステム(株)子会社化

- 2001**
- 錦糸町ビル竣工
 - (株)ダイエー情報システム(現(株)ヴィンクス)子会社化

- 2002**
- プライバシーマーク取得

- 2003**
- 東京データセンター開設

- 2004**
- 本社ビル落成(神奈川県横浜市)

- 2005**
- 東京大学医学部に軟骨・骨再生医療に関する寄付講座を開設
 - 日本経済新聞社「働きやすい会社」10位にランクイン

- 2006**
- 富士ソフト(株)に商号変更
 - シンボルマーク誕生

- 2007**
- 秋葉原ビル落成(東京都千代田区)
 - 経済産業省公募プロジェクト「次世代ロボットプロジェクト」に筑波大学と参画

- 2008**
- 車載ソフトウェアの標準化に取り組む「AUTOSAR」加入し、名古屋大学大学院と共同研究を開始

- 2009**
- 初の海外拠点台北支店開設(台湾)



変革期 (2012-)

2011年、代表取締役専務 坂下が代表取締役社長に就任。さらなる変革に挑戦する一環として、2013年より在宅勤務制度を拡大。こうした取り組みが、創立50周年を迎えた年のコロナ禍を克服する手立てに。

- 2010**
- 秋葉原と大阪にマイクロソフトソリューション&クラウドセンター開設

- 2012**
- ソウル支店開設(大韓民国)

- 2013**
- ヴィンキュラム ジャパン(株)と(株)ヴィックスが合併、(株)ヴィンクスに商号変更
 - 在宅勤務制度を全社員対象に拡大

- 2014**
- 富士ソフト・ティッシュエンジニアリング(株)を設立
 - 中国現地法人設立

- 2016**
- サイバーコム(株)、東京証券取引所市場第一部に株式指定替え

- 2017**
- (株)ヴィンクス、東京証券取引所市場第一部に株式指定替え

- 2018**
- 柔軟な働き方を実現するウルトラフレックス制度導入

- 2019**
- テレワーク・デイズに過去最大の延べ2,700名が参加

- 2020**
- 5月15日創立50周年



- 2023**
- 汐留ビル落成予定(東京都港区)